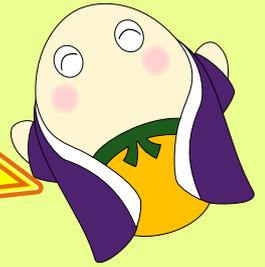




## 木の家は火事に弱くないの？

**木の家だから燃えやすいということはありません！**  
耐火部材の開発・実用化が行われ、鉄骨造や鉄筋コンクリート造  
と同等の火災安全性が確保できるようになっています



## “木”の家だから火事が起きる??

平成29年の建物火災発生のうち、木造火災は約55%、非木造は約45%（消防白書）。  
**木造と鉄骨造・鉄筋コンクリート造で火災発生件数の差は思ったほど大きくありません。**

延焼率（隣の建物に延焼する割合）や1件あたりの焼損床面積を見ると、  
木造は非木造より大きく、隣の家を巻き込んでたくさん燃えるためニュースで  
よく取り上げられると考えられます。

木造でも、延焼率や焼損床面積を  
減らすことができれば、  
火事に負けない木の家をつくることができます！



## 木材は水分を含む燃えにくい可燃物！！

- ・木材は水分を含んでおり、季節にもよりますが、含水率は約10～15%の間にあります。
- ・たとえば、含水率15%の厚さ15mmのスギ板を壁に1㎡張ると水分量は約780mlあることとなります。



ペットボトル約1.5本分!!

## 木材はどう燃える??

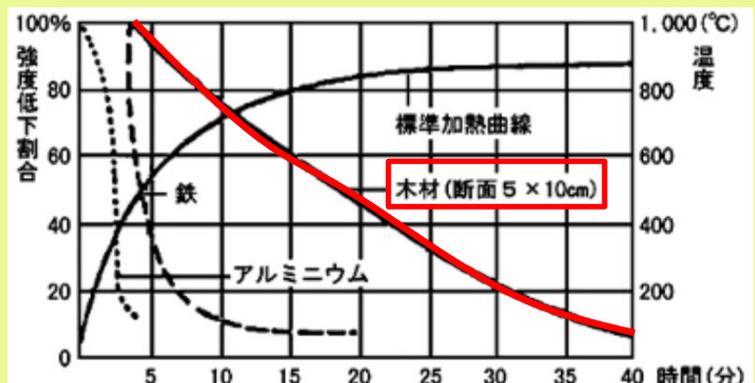
- ・火災時、木材表面から火炎はでますが、表面に炭化層を形成し、内層への熱を遮断するとともに、酸素の供給を阻止するので、**芯まで燃えつきるまでの時間が長く建物が火災により倒壊するまでの時間はきわめて長くなります。**
- ・鉄は250℃になると変形をし始め、5分も経たないうちに元の強さの半分になってしまいます。木材が元の強さの半分になるのは20分もかかります。
- ・より安全な木の家にするには、**燃えにくくなる処理**を行う、**燃えにくいもので覆う**、**火元の近くに木をむき出しにしない**などの工夫が大切です。

<表面に炭化層ができた木材>



出典：一般社団法人日本ツーバイフォー建築協会

<鉄・アルミニウム・木材の加熱による強度低下>



出典：「木と日本の住まい」日本住宅・木材技術センター